

令和6年度終了課題 住宅生産技術イノベーション促進事業 技術開発等の成果報告に係る評価総括表

番号	技術開発名	構成員	実施年度	成功点	残された課題	今後の展開への助言等
1	木質繊維の高密度化による建築部材の開発と工法の検討	・ホクシン(株) ・東京大学 ・日本大学	令和4～6年度	・高密度木質繊維板および積層ボードの開発と断熱材との複合パネル化により、工種と工数の削減が可能となった。	・今後は、性能評価・認証の取得や各部のディテールの開発・検証などが課題となる。	・開発した要素技術を基に性能評価・認定の拡充や設計・施工マニュアルの充実などを進め、実用的な設計・施工方法としての普及が進むことを期待する。